ビッグデータを活用した労働市場動向の分析と雇用予測モデルの開発

22011361 山羽瑠

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）のパンデミックは世界的な経済活動に大きな影響を及ぼし、その中でも労働市場は大きな変化を経験している。その変化に対応し、未来の労働市場の動きを理解しようとする試みが必要であり、それこそが本研究の動機となる。

現代の労働市場は、オンライン求人、人事データ、ソーシャルメディア等から大量のデータを生成しており、これらを分析することで労働市場の動向をリアルタイムに把握することが可能となっている。本研究では、これらのビッグデータを活用し、新たな雇用の予測モデルを開発する。

具体的には、労働市場や労働力人口に関連するビッグデータを集め、機械学習を活用した分析手法により、これらのデータから労働市場の動向を読み解く。そしてその結果を基に、雇用の予測モデルを構築する。

仮説としては、パンデミックにより変化した労働市場の動向が、雇用モデルにも大きな影響を与えると考える。リモートワークの増加や職種・業種のシフトといった変化により雇用者の増加、人件費の削減など労働市場全体に与える影響を予測することが可能となると予想している。

本研究の目的は、パンデミック後の労働市場の動向を理解し、未来の労働市場の動きを予測するための新しい手法を開発することである。これにより、企業の人事戦略立案や政策立案者の意思決定に有用な情報を提供できることを目指している。

予想される結果としては、パンデミックによる労働市場の変動が雇用モデルにどのように影響を与えるのかを詳細に描き出すことができると期待している。特に、リモートワークの普及や職種の変化といった大きな動きが雇用モデルにどのように影響を及ぼし、どのような対策が求められるのかを明らかにすることが可能となると予測している。これは、パンデミック以降の労働市場の現状理解を深め、未来の労働市場の動向を予測するための新たな手法の開発に寄与するはずである。

最終的に、本研究が企業の採用戦略の立案や政策立案者の意思決定に対して有用な情報を提供することで、労働市場の安定化と発展に貢献できることを期待している。それにより、パンデミック後の新しい労働市場の形成に適応するための一助となることを願っている。